

「土砂災害から身を守るために」

茨城県 常総市立三妻小学校 5年 ^{くさま}草間 ^{はると}陽大

今年は、日本各地でもう暑になりました。高知県四万十市では、日本で最も高い141度を記録したとニュースで聞きました。しかしそれだけではありません。太陽の光などにより暖められた空気が積乱雲になり、集中ごう雨やゲリラごう雨などの大雨をふらせます。その雨水が地面にしみこむと、土砂災害になりやすくなります。この前旅行に行った上高地では、周りが急な山々に囲まれているため、あらゆるところに砂防えんていなどのしせつがたくさんありました。ですが、もしもそのようなしせつがない所で土砂災害があったとしたら、と思うとおそろしくなります。そこで、土砂災害から身を守るには、どうすれば良いのか考えて見ました。

土砂災害の原因は、大雨によるものがほとんどでそれには二つあります。一つ目は、火山ふん火による土砂災害です。火山がふん火すると、火山灰が積ります。火山灰は、水を通しにくいので、雨水はしみこめないで、下へと進みます。その時、火山灰をまきこんで土石流になります。二つ目は、地震によるがけくずれです。地震で発生するゆれが雨などで弱くなった急しゃ面の土をおそと、がけくずれが起きるのです。がけくずれの防災事業がもっとできればいいなと思いました。

また、このような土砂災害でくずれ落ちた土砂が、川の流れをせきとめて、天然ダムを作る可能性もあります。天然ダムができると、近くにあった家が水没してしまうおそれができます。しかし、中越地震で天然ダムができた時、土石流が起きそうになり、国土交通省と県とで、川の下流の住民にひなんをよびかけるシステムを作るなどして、市民を救ったといえます。ぼく達の命を守り、助けてくれるお仕事をしている人たちにとっても感謝しています。

ぼく達のような、川の近くに住んでいる人も注意しなければいけないと思います。なぜなら、もし川を勢いのある土石流が下って来たら、土手を乗り越えてきてしまうかもしれないからです。「ここでは何十年も土石流はないから大丈夫だ。」「自分は安全な場所に住んでいる。」などの心の油断があるといけないと思います。2003年の7月20日に、熊本県を流れる水俣川でも心の油断があった人がいて、土石流の事故にまきこまれてしまったという事もあったそうです。ぼくは、油断している人に積極的によびかけたいと思いました。

今度、ぼくの家近くの土手に、土手の高さをさらに高くする工事が始まるので、犬の散歩などで外に出た時、どのようになるのかいつも気になって見えています。そのような防災事業に取り組んでくれることは、とてもうれしいと思いました。

このような大変大きな事故になるおそれがある土砂災害ですが、どうすれば被害を防ぐことができるのでしょうか。まずはどこかに安全な場所を作って、そこに早めにひなんすることが大切だと思います。それでも地域全体がすぐに安全になるとはかぎらないので、お年よりや病氣の人を、ふつうに生活できる人が運んであげるべきだと思います。

土砂災害から身を守るには、二つの方法があります。一つは、砂防に関するしせつを作り、流れてくる土砂をコントロールすることです。もう一つは、ひなんすることです。どこに住んでいる人でも土砂災害が起こりやすい所を確にんするべきだと思います。また、その確にんが楽にできる方法がハザードマップや土砂災害警戒情報です。ハザードマップは、土砂災害の起こりやすい場所を示したものです。ぼくも、山の近くに住むおばあちゃんに、ハザードマップを見せてもらったことがあります。土砂災害警戒情報とは、大雨による土砂災害が起こるきけんが高まった時、都道府県と気象庁が発表するひなんにかかせない情報です。これだけ細かくがんばっていて、さすが砂防の国だなと思いました。

とにかく早めにひなんすることが一番大事だと思います。ぼくは、日本中の人々に土砂災害のことを知ってもらいたいです。日本が、土砂災害に一番強い国と、世界にみとめられるようにしたいです。